

核医学情報のネットワーク化WG

核医学情報のネットワーク化 ——核医学会の新たな発展を目指して——

鈴木 豊(東海大・放)
川島 隆太(東北大加齢研)
秀毛 範至(旭川医大・放)
本田 憲業(埼玉医大医セン・放)
梅沢 千章(慈恵医大・放)

西村 克之(茨城県立大・放)
牛嶋 陽(京都府立医大・放)
辻 志郎(金沢大・保険)
中別府良昭(鹿児島大・放)

核医学情報のネットワーク化WGは、東海大学医学部ME学教室のサーバに開設されたメーリングリスト“jsnmwg@bme.med.u-tokai.ac.jp”を介してインターネット上で議論を重ねた。

その論点は、以下の4項目に要約される。1) ネットワーク化の目的は何か、2) 扱うべき情報は何か、3) 情報の送受信方法について、4) ネットワーク化を実現し、それを維持、発展させていくためには何が必要か。

1)については、学会の活性化、会員相互および会員と事務局間の情報交換の円滑化、核医学以外の医学関係者との情報交換の活発化、一般大衆に対する啓蒙手段、国際交流の手段としてなどが挙げられる。2)については、ネットワーク化が容易な情報と多大な労力を要する情報、あるいは、一度作成すればその後あまり変更を要しない項目と定期的に変更する必要のある項目とに分けて考える必要があろう。3)については、現状では、インターネットの利用を前提としている。4)が最も重要な検討項目であることについては、誰しも異存のないところである。ネットワークの構築、維持、発展に必要な項目を把握し、それぞれに対する対応をあらかじめ決めておくことが、その後のネットワーク化の成否を大きく左右すると考えられる。まず第一にネットワーク化に要する費用をどうして賄うかについて見通しを立てる必要がある。会費から支出するのが理屈の上では最も妥当であるが、学会の経済状態でこれが可能か否かまず検討す

る必要がある。広告を入れて経費の一部を賄う、大学あるいは公的機関のシステムを利用させてもらうことで経費を押さえるなどの案も検討すべき課題である。ネットワーク化に要するマンパワーの確保も、きわめて重要な問題である。有能な人材の確保なくしてネットワーク化の成功は、おぼつかないと言っても過言ではないであろう。その解決策として、民間のプロバイダーに業務を全面的に委託する、然るべき大学の教室のマンパワーに期待する、学会として会員の間からボランティアを募り、業務を委任する、あるいは、公的機関の技術援助に頼るなどの解決策が考えられる。どのような方策を選択するかはネットワーク化に支出できる費用に大きく依存する。核医学会としてそのネットワークシステムを維持し、発展させていくという観点からすると、マンパワーを全面的に外部に依存することやボランティアのみに頼ることは、将来に禍根を残す恐れがあり、慎重に考える必要があろう。

以上述べたように、ネットワーク化に先立ち解決すべき問題は、多々あるが、近年、米国核医学会をはじめ諸外国の核医学会がホームページを開設し、その内容を質量共に急ピッチで高めている状況や、わが国の他学会のこの面における活動状況を勘案すると、本学会においても情報のネットワーク化についての事業に着手すべき時期にきていると言っても過言ではないであろう。